

(公社) 日本山岳協会競技部

# 北信越ブロック別研修会

## 国体運営資料

(受講証 5年間有効)



日 時：平成29年2月26日(日) 午前9時～

場 所：福井県中小企業産業大学校

28日山協発第193号

平成28年12月9日

各都道府県山岳連盟(協会)

会長及び理事長 各位

高体連登山専門部長 殿

公益社団法人 日本山岳協会

会 長 八木原 罔明

(公印省略)

## 法人名称の変更について

拝啓 師走の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本協会の事業運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、過日、11月13日に行われた臨時総会において、本協会の法人名称を平成29年度より、下記のように改称することが決議されたことをご報告申し上げます。

### 記

#### 新名称

「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会」とする。

英文では、「Japan Mountaineering & Sport Climbing Association」と表示し、JMSCAと略称する。

登記は29年4月1日が土曜日のため、4月3日になります。内閣府への変更届は登記後になります。それに合わせて、協会のロゴマーク、旗などの変更を手配しております。

以上

# 東京五輪推進室の設置

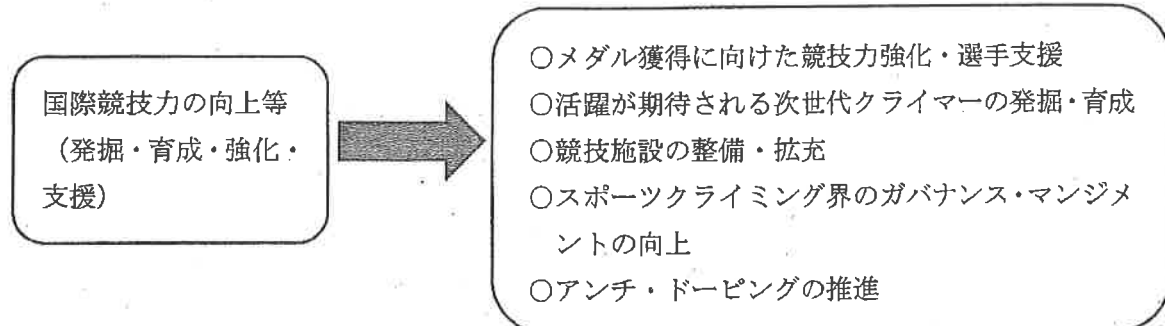
お台場に仮設で行う

ワールド・ボルト・リンク・スピード

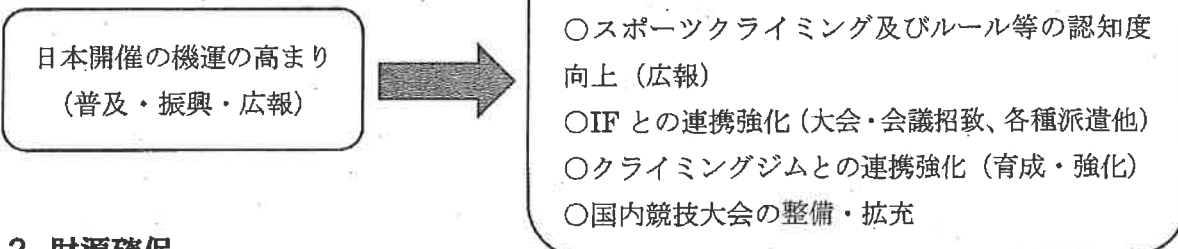
## I. 東京五輪推進室において取り組む主な課題

### 1. 国際競技力の向上等

東京 2020 オリンピックに向けて世界で活躍できる競技者の育成・強化を積極的に推進



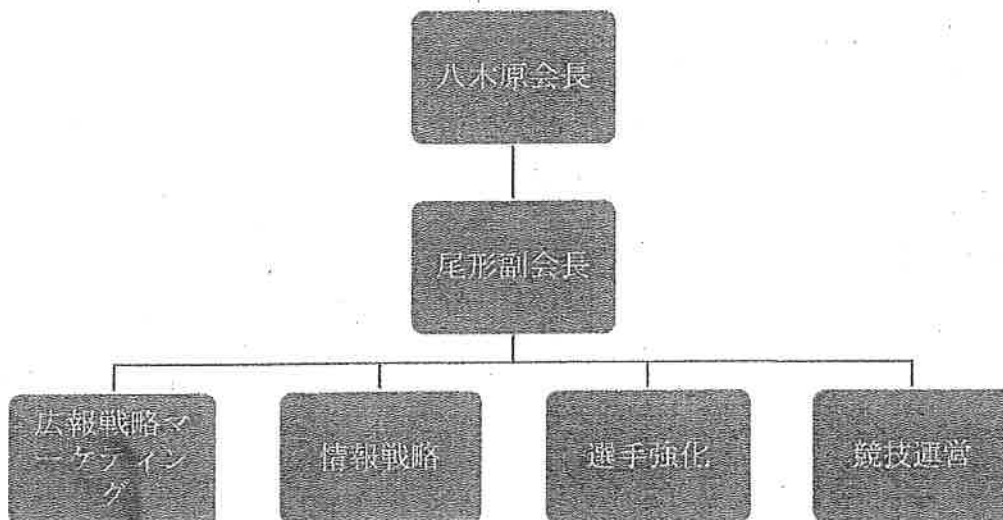
### 2. 日本開催の機運の高まり



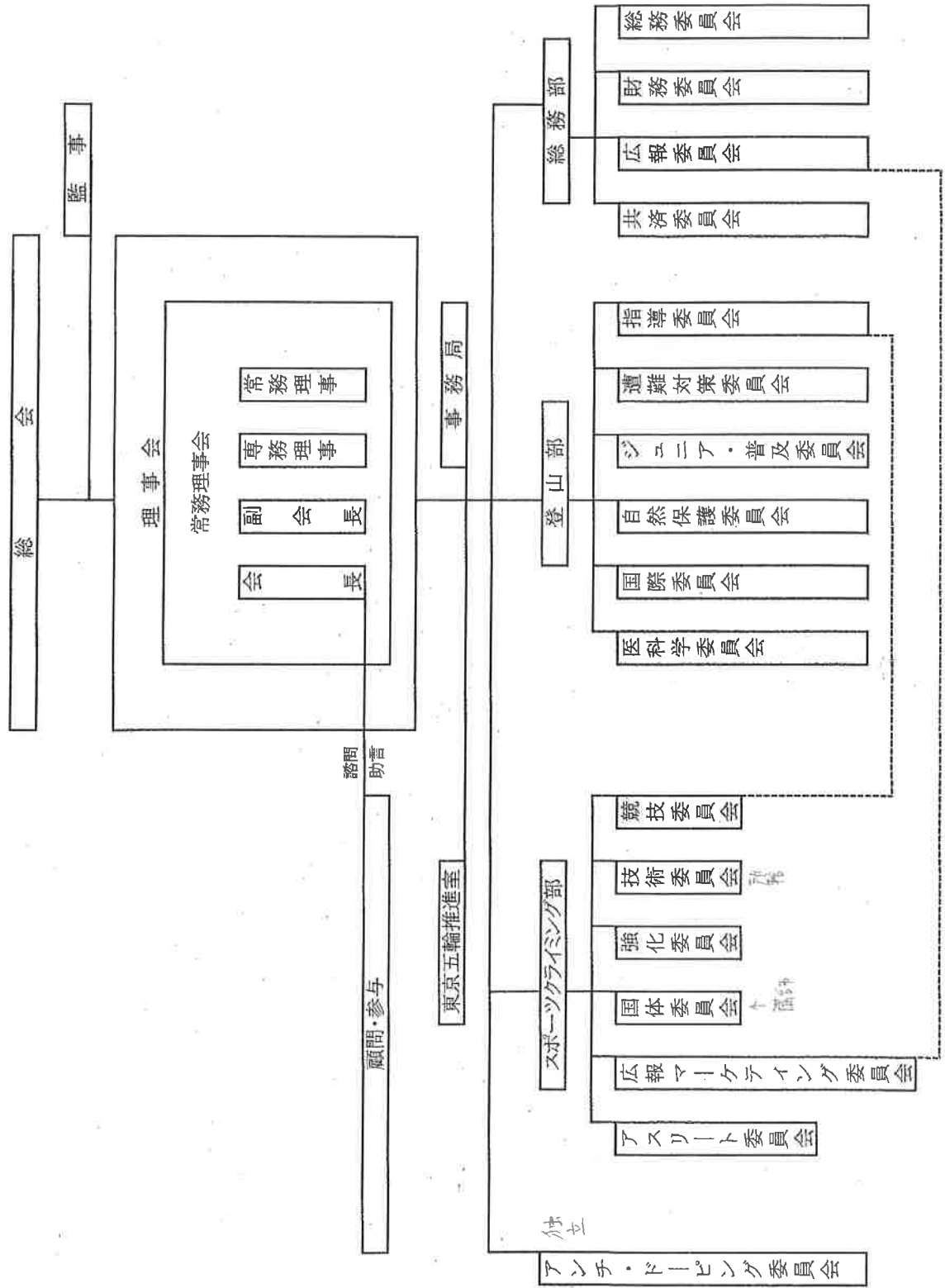
### 3. 財源確保

上記課題解決には、安定した財源確保が何より重要である。スポーツライミングの五輪種目に伴う知名度アップを活用して積極的にスポンサー獲得に努める。また、JOC 等に対し、スポーツライミングに対する理解と助成が得られるよう積極的に働きかけを行う。

## II. 組織



# 公益社団法人 日本山岳協会 組織図(案)



## 国民体育大会開催への道のり

	会場地実行委員会	開催岳連	中央競技団体
5年前	国体開催（内定） 国体開催正式申請書提出 一次競技役員等編成案・競技用具整備計画策定 リハ大会開催基準要綱作成 開催県視察	開催県視察 競技役員養成 一次競技役員等編成・競技用具整備計画立案	開催県競技役員養成事業協力 開催指導、
4年前	競技役員等の養成推進 競技用具整備・配置、特殊施設設置整備計画 検討・策定 開催県視察、準備概要発行	開催県視察 競技役員養成	開催県競技役員養成事業協力 開催指導、
3年前	国体開催決定 県実行委員会設置・国体局設置 開催経費概算見積検討・作成 二次競技役員等編成案作成 二次競技用具整備計画策定 競技役員等の養成推進 開催県視察	開催県視察 開催県審判員派遣 競技役員養成 二次競技役員編成・競技用具計画立案 実行委員会設置 主要役員内定	開催県競技役員養成事業協力 開催指導、
2年前	準備概要発行 競技会役員・競技役員等編成基準検討・作成 県内審判員、競技役員数の決定 競技用具の整備・配置（二次） リハ大会実施要項・競技役員等編成計画策定 開催県視察 競技施設認定諸調査、施設認定申請、施設認定 現地調査	開催県視察 開催県審判員派遣 日山協競技常任委員会派遣 競技役員養成 競技用具の整備・配置（二次） 施設認定申請受理、施設認定 現地調査	開催県競技役員養成事業協力 開催指導 施設認定申請受理、施設認定現 地調査
前年	競技役員等派遣旅費基準検討・策定 競技役員・係員業務必携作成 競技役員等編成 競技用具整備・配置（三次） 施設認定受理 開催県視察	開催県視察 開催県審判員派遣 競技役員養成 競技用具整備・配置（三次） 実施要項作成 競技役員決定・研修会開催、 正副審判長、主任・副主任審判員、審 判員、チーフ・ルート・セッター、ル ート・セッター選考	開催県競技役員養成事業協力 開催指導 競技施設認定 実施要項作成助言 正副審判長、主任・副主任審判 員、審判員、チーフ・ルート・ セッター、ルート・セッター選 考
開催年	リハーサル大会 組合せ抽選会 運営本番	競技役員全体研修会 リハーサル大会 組合せ抽選会 実施要項等発送、 報告書作成・発送	開催県競技役員養成事業協力 開催指導 実施要領・会場地図承認 競技場確認



## 国民体育大会山岳競技組織、運營業務

	役職名	業務内容	ポイント
本部 役員	会長	1 競技会の総括。 競技委員長の報告に基づき、表彰状の作成及び成績発表について総務部に指示。	競技会主管団体代表が担う ・実施本部会議出席し、業務報告 ・表彰式での表彰状を授与
	副会長	2 会長を補佐。	
	競技委員長	1 競技会の運営を総括。	・競技会主管団体国体競技責任者が担う。 ・中央総務委員会で総合成績順位及び講評原稿の内容確認後、競技会会長の承認を得る
	競技副委員長	2 競技委員長を補佐。	・表彰式で総合成績順位の発表 ・競技会終了後、都道府県別得点の最終結果を公表 ・実施本部会議出席し、業務報告
	中央総務委員	3 競技会の運営及び審判について、競技規則その他の規則に基づき審査確認 メディアからの照会への、対応	・必要な事項について助言と改善を指示 (1) 競技会場及びその付帯施設についての確認 (2) 競技運営についての点検 (3) 総合成績の確認 (4) 荒天による競技の変更及び中止についての決定 (5) 選手、監督の資格、退場及び失格の決定 (6) 抗議に対する判定とその措置 (7) その他、必要な事項の処理 ・実施本部会議出席し、業務報告
	県内総務委員	3 開催地岳連内における運営各部の連絡調整、指導 視察員、全国岳連関係者の応接等	・後催岳連視察員への説明と、競技場での説明、同行 ・実施本部会議出席し、業務報告
	総合成績計算委員 (兼任)	3 ・競技ごとの、競技成績について審査、確認 中央総務委員、競技部長各1名、競技副委員長(中央) 副審判長(中央)の内1名より選任	審判長の提出した競技得点表に基づいて都道府県別総合成績表を作成し、順位を決定して競技委員長に提出
行 動 役 員	審判長	1 ・審判員の業務を指揮監督 ・総合表彰式で講評を行う	・審判員会を開催し、競技得点表を作成して総合成績計算委員会に提出 ・主任審判員の講評内容を総括し、講評原稿を作成して競技委員長に提出 ・実施本部会議出席し、業務報告
	副審判長	2 審判長を補佐	
	主任審判員	2 審判長及び副審判長の指示に従い審査	審判長の指示により、担当種別又は種目に関する講評原稿を作成
	副主任審判員	4 主任審判員を補佐	・実施本部会議出席し、業務報告
	審判員	13 主任審判員及び副主任審判員の指示に従い審査	・審査結果を、競技終了後速やかに報告
	チーフルートセッター	2 ルートセッター及びリード競技におけるルート作業員を指導して、国体山岳競技に準拠して立案、計画、実施	・競技会におけるルート及びボルダーのデザイン、ホールド及びプロテクションその他の器具類の設置 ・ルート及びボルダーの補修とクリーニング、ウォームアップ設備のデザイン、設置、メンテナンスなど ・ルート及びボルダーの技術的標準と安全性を確認し、競技エリ

			<ul style="list-style-type: none"> <li>ア内における技術的問題について主任審判員に助言</li> <li>・リード競技におけるルート図作製を補助</li> <li>・ビデオカメラの設置場所の決定に際し、主任審判員に助言</li> </ul>	
ルートセッター	7	チーフ・ルートセッターの指示に従い、ルート及びボルダーを設定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リード・ルートのルート図を作成</li> <li>・主任審判員又はチーフ・ルートセッターの指示に従い、定期的又は必要に応じてクライミング・ウォールのクリーニング及び点検</li> </ul>	
プレイヤー	10	主任審判員の指示に従い、選手を確保。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手の安全確保と円滑な競技進行</li> </ul>	
ルート作業員	4	主任審判員又はチーフ・ルートセッターの指示に従い、定期的又は必要に応じてクライミング・ウォールのクリーニング及び点検を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手の競技後のホールドの清掃</li> </ul>	
通信連絡員	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任審判員の指示に従い、アイソレーション・ゾーン、コール・ゾーンの管理、選手、監督の導を行う。</li> <li>・本部その他との通信・連絡及び進行を担当。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手、競技チーム受付</li> <li>・アイソレーション・ゾーンから競技エリアへの移動帯同</li> </ul>	
計測記録員	4	主任審判員の指示に従い、計測とその記録及び競技状況の記録を担当。	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技成績、競技タイマーの管理</li> </ul>	
医務員（医師、看護師等）	4	選手の健康、衛生管理を担当。	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の救護、搬送について主任審判員の指示を受けその処置</li> </ul>	
運 営 役 員	総務部長	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務部業務の総括。</li> <li>・メディア対応補助。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施本部会議出席し、業務報告</li> <li>・競技全般の窓口</li> <li>・各種会議の開催、記録の収集・報道、受付・接待、経理、式典、実施本部の運営、設営並びに他の部に属さない事項の統括</li> </ul>
	総務副部長	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務部長を補佐。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア対応資料の集約、まとめ</li> <li>・選手、監督、競技役員、視察員の受付総括</li> <li>・L、B競技会場受付総括</li> </ul>
	総務経理	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技役員旅費、競技運営経理</li> <li>・予算の編成と執行及び決算報告</li> <li>・資金の調達</li> <li>・現金及び有価証券の保管</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【共通項目】</li> <li>総括的な企画、運営並びに実行委員会との連絡調整</li> <li>関係機関及び各部との連絡調整</li> <li>文書の作成及び收受発送</li> </ul>
	記録報道	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技運営の記録、広報</li> <li>・報告書原稿の依頼・回収及び編集・作成</li> <li>・競技記録の発表</li> <li>・メディア等との連絡・調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合実施計画書、実施要領の作成</li> <li>役員名簿、競技役員必携の作成及び行動把握</li> <li>プログラム、総合成績表、報告書の作成</li> <li>大会実施本部の運営</li> </ul>
	受付接待	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手、監督、競技役員、視察員の受付</li> <li>・受付・案内所の設置</li> <li>・参加章、資料、プログラム等の配布</li> <li>・諸会議の受付接伴に関すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技用機材等（備品、消耗品）の管理</li> <li>外来者の受付・接待</li> <li>受付事前準備（配布物の仕分け、必要物品の確認・仕分け等）</li> <li>競技役員全体会議、監督会議、表彰式等設営・受付</li> </ul>
	会議式典	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>監督会議、表彰式等式典、</li> <li>・表彰式の実実施計画書の作成と運営</li> <li>・諸会議の設営及び資料準備・配布</li> <li>・会議録の作成・配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県記録送信員への連絡</li> </ul>
	設 営	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技会場設営、看板等</li> </ul>	



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技会場等の設営及び各部との連絡調整</li> <li>・競技部と連携し、競技施設並びに看板類の設営計画の作成とその発注</li> <li>・競技に関する施設、設備並びに看板類の設置とそれらの維持管理</li> <li>・各競技会場全体及び施設・設備の維持管理</li> <li>・荒天時における対策</li> <li>・大会終了後の各施設・撤去計画策定</li> </ul>	
競技部長	1	競技部業務の総括	その他、他部の所管でない事項の処理 ・実施本部会議出席し、業務報告
競技副部長	2	競技部長を補佐。 ・L、B競技進行管理	・通信、会場整理総括 ・競技等器具、用具の整備総括
競技記録	6	競技の公式記録業務	・判定、ジャッジ用ビデオ撮影 ・競技期間中の行動記録、選手の健康状態の把握 ・競技成績の収集・搬送・記録並びに成績発表
得点集計	4	チーム成績の集約	・競技成績集計 ・スタートリスト作成、成績表の作成と競技部長への送致 ・集計プログラム訂正
会場競技	3	L、B競技会場での競技成績発表業務	・競技得点の入力・確認 ・仮成績、正式成績記録の掲示 ・補助員の指導
通信連絡	2	競技会の管理運営並びに競技進行に必要な通信業務全般の把握、各競技場、実施本部間の無線・有線・OA通信全般を管理統括 ・通信計画の作成及び実施 ・通信中継業務の管理	・各部署からの通信内容の把握及び調整 ・通信機器の保守、管理、貸出、返却
医療看護	2	選手、役員、その他競技関係者の健康管理、安全対策及び事故発生時の応急対応・処置等、医療救護活動 ・医療救護計画の作成	・医学的判断、応急措置対応、救急体制の確立 ・医療機関との連絡調整 ・医療器具、医薬品の管理 ・実行委員会との連携
輸送・宿泊部長	1	輸送・宿泊業務の総括	・輸送計画、配車計画の作成 ・実施本部会議出席し、業務報告 ・宿泊計画の作成、宿泊計画の実施と進行管理
輸送・宿泊副部長	1	輸送・宿泊部長を補佐	・計画輸送の変更、計画外輸送の調整 ・計画外配宿の対応 ・他部との連絡・調整
部員	4	輸送、宿泊を担う選手、役員、荷物等の輸送全担当し、配車状況の確認及び各部との連絡調整	・計画輸送道路状況の把握。 ・チームごとの、宿泊場所事前確認 ・選手・監督等の移動案内 ・計画輸送バス運行の円滑遂行 ・昼食弁当・行動食等の調達・配付全般
競技会係員		会場地実行委員会 池田町	競技会場、競技式典、記録速報、後催市町等対応、お成り対応
競技補助員		主に高校生（引率教諭）	競技役員業務の補助

競技会役員

## 国民体育大会冬季大会の開催実績及び今後の開催予定

◆平成12年(第55回大会)以降の冬季大会開催都道府県

H28.12.16

大会		本大会	冬季大会		
年	回		スキー	スケート	アイスホッケー
2000(H12)	55	富山	富山★	青森	
2001(H13)	56	宮城	長野	山梨	
2002(H14)	57	高知	新潟	北海道	
2003(H15)	58	静岡	北海道	群馬	
2004(H16)	59	埼玉	山形	青森	
2005(H17)	60	岡山	岩手	山梨	東京
2006(H18)	61	兵庫	群馬	北海道	
2007(H19)	62	秋田	秋田★	群馬	
2008(H20)	63	大分	長野		
2009(H21)	64	新潟	新潟★	青森	
2010(H22)	65	千葉	北海道		
2011(H23)	66	山口	秋田	青森	
2012(H24)	67	岐阜	岐阜★	(ス)岐阜★ (シ・フ)愛知	愛知
2013(H25)	68	東京	秋田	東京★(ス福島)	
2014(H26)	69	長崎	山形	栃木	
2015(H27)	70	和歌山	群馬		
2016(H28)	71	岩手	岩手★		
2017(H29)	72	愛媛	長野		
2018(H30)	73	福井	新潟	山梨	神奈川
2019(H31)	74	茨城	北海道		
2020(H32)	75	鹿児島	(未定)		
2021(H33)	76	三重	(未定)		
2022(H34)	77	栃木	(未定)		
2023(H35)	78	佐賀	(未定)		
2024(H36)	79	滋賀	(未定)		
2025(H37)	80	青森	(未定)		
2026(H38)	81	宮崎	(未定)		
2027(H39)	82	(未定)	(未定)		

【注】① ★印の都道府県は、国体本大会(夏秋季大会)と冬季大会を併せて開催。

② スケート競技会の(ス)はスピード種目を、(シ)はショートトラック種目を、(フ)はフィギュアスケート種目を表す。

国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則の一部改正（案）

2016.11.1

現行規程	改正（案）	改正理由
<p>国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則</p> <p>第26条                      (1) 選手の健康状況の申告                      (2) 競技ルート及びボルダーの概要と注意事項                      (3) スタート及び完登の場所、方法                      (4) 競技終了通告の場所、時刻                      (5) 監督の行動                      (6) 選手、監督の確認                      (7) その他、必要な事項                      (抗議)</p> <p>第42条                      5 仮発表した競技結果に関する抗議は、仮発表が掲示されてから10分以内に限る。</p> <p>附則                      1 この規程の改廃は、理事会で行う。                      2 この規程は、昭和51年5月23日から施行する。                      昭和54年5月27日 改訂                      ↓                      &lt;以下省略&gt;                      ↓                      平成26年5月25日 改訂</p>	<p>国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則</p> <p>第26条                      (1) 選手の健康状況の申告                      (2) 競技ルート及びボルダーの概要と注意事項                      &lt;削除=繰り上げ=&gt;                      (3) 選手、監督の確認                      (4) その他、必要な事項                      (抗議)</p> <p>第42条                      5 仮発表した競技結果に関する抗議は、仮発表が掲示されてから5分以内に限る。</p> <p>附則                      1 この規程の改廃は、理事会で行う。                      2 この規程は、昭和51年5月23日から施行する。                      昭和54年5月27日 改訂                      ↓                      &lt;以下省略&gt;                      ↓                      平成26年5月25日 改訂                      平成28年11月13日 改訂</p>	<p>過去の競技（踏査縦走競技）の規定を削除する。</p> <p>適切な競技進行を図るため仮発表時の抗議時間を短縮した。</p>

クライミング競技審判員規程の一部改正（案）

2016.11.1

現行規程	改正（案）	改正理由
<p style="text-align: center;">クライミング競技審判員規程</p> <p>（目 的）</p> <p>第1条 公益社団法人日本山岳協会（以下「日山協」と略称する。）は、クライミング競技の公平厳正な審査を行うため、公認クライミング審判員（以下「審判員」と略称する。）規程を定める。</p> <p>（資格・任務）</p> <p>第2条 審判員は、日山協に所属する都道府県山岳連盟又は協会（以下「岳連」と略称する。）会長の推薦を受け、かつ、19歳（認定研修会受講年度の4月1日を基準とする）に達している者とする。</p> <p>2 審判員は、日山協又は岳連が主催、共催、若しくは主管するクライミング競技会、競技会の審判を行うことができる。</p> <p>（種 類）</p> <p>第3条 審判員は、<b>S級</b>、A級、B級及びC級の<b>4種類</b>とする。</p> <p>2 審判員資格の認定については第5条に定めるところによる。</p> <p>3 C級審判員は、公認競技会の審判を行うことができる。</p> <p>4 B級審判員は、ブロック大会以下の公認競技会において、主任審判員、審判長及び競技委員長を務めることができる。</p> <p>5 <b>S級及びA級</b>審判員は、全国大会規模の公認競技会において、主任審判員、審判長及び競技委員長を務めることができる。</p> <p>6 国民体育大会（「以下国体」と略称す</p>	<p style="text-align: center;">クライミング競技審判員規程</p> <p>（目 的）</p> <p>第1条 公益社団法人日本山岳協会（以下「日山協」と略称する。）は、クライミング競技の公平厳正な審査を行うため、公認クライミング審判員（以下「審判員」と略称する。）規程を定める。</p> <p>（資格・任務）</p> <p>第2条 審判員は、日山協に所属する都道府県山岳連盟又は協会（以下「岳連」と略称する。）会長の推薦を受け、かつ、19歳（認定研修会受講年度の4月1日を基準とする）に達している者とする。</p> <p>2 審判員は、日山協又は岳連が主催、共催、若しくは主管するクライミング競技会及び日山協が後援する競技会（以下「公認競技会」と略称する。）の審判を行うことができる。</p> <p>（種 類）</p> <p>第3条 審判員は、A級、B級及びC級の3種類とする。</p> <p>2 審判員資格の認定については第5条に定めるところによる。</p> <p>3 C級審判員は、公認競技会の審判を行うことができる。</p> <p>4 B級審判員は、ブロック大会以下の公認競技会において、主任審判員、審判長及び競技委員長を務めることができる。</p> <p>5 A級審判員は、全国大会規模の公認競技会において、主任審判員、審判長及び競技委員長を務めることができる。</p> <p>6 国民体育大会（「以下国体」と略称する。）における審判長、主任審判員、競技</p>	<p>日山協が後援する競技会も加える。</p> <p>S級を削除。3種類とする。</p> <p>第5条第4項第5項に特例としてS級審判員を規定していたが、これを改めることにより、S級審判員を廃止する。</p> <p>S級を削除。</p>

る。)における審判長、主任審判員、競技委員長の資格要件については、別に定めるところによる。

(義務)

第4条 審判員は、資格有効期間内に日山協が主催する認定研修会に1回以上参加しなければならない。資格有効期間内の公認競技会において1回以上審判員を務めた者は認定研修会に参加したものとみなす。

2 資格有効期間内において、国際大会に日本代表選手及び国体に都道府県代表選手又は監督として参加した者は、認定講習会に参加したものとみなす。

3 公認競技会とは、国際大会、日山協又は岳連、及びこれに準ずる団体が主催、共催又は主管するクライミング競技会及び日山協が後援する競技会をいう。

(認定と昇級)

第5条 C級審判員資格の認定は、審判員認定研修会の筆記試験及び実技研修の結果に基づき、技術(審判)委員会が審査の上、常務理事会の議を経て日山協会長が行う。

2 C級審判員からB級審判員への昇級は、A級以上の審判員が審判員を務める競技会(原則としてリード競技会)において1回以上審判を行い、それに対するA級以上の審判員の審査に基づき、技術(審判)委員会が推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。

3 B級審判員からA級審判員への昇級は、A級以上の審判員2名の推薦によって技術(審判)委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。

4 A級審判員からS級審判員への昇級は、原則としてA級審判員6年以上の者について、A級審判員以上の審判員2名の推薦によって技術(審判)委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。

委員長の資格要件については、別に定めるところによる。

(義務)

第4条 審判員は、資格有効期間内に日山協が主催する認定研修会に1回以上参加しなければならない。資格有効期間内の公認競技会において1回以上審判員を務めた者は認定研修会に参加したものとみなす。

2 資格有効期間内において、国際大会の審判を行った国際審判員資格保有者は、認定講習会に参加したものとみなす。

(3 削除)

(認定と昇級)

第5条 C級審判員資格の認定は、審判員認定研修会の筆記試験及び実技研修の結果に基づき、技術(審判)委員会が審査の上、常務理事会の議を経て日山協会長が行う。

2 C級審判員からB級審判員への昇級は、A級の審判員が審判員を務める各種目の公認競技会(リード競技会及びボルダリング競技会)において、各々1回以上審判を行い、それに対するA級の審判員の審査に基づき、技術(審判)委員会が推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。

3 B級審判員からA級審判員への昇級は、3年以内に各種目の公認競技会を各々1回以上経験し、A級の審判員2名の推薦によって技術(審判)委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。

(4 削除)

国際大会などに参加した選手・監督でも規則の理解に乏しい実態があり、2の条文を変更する。

3項を削除し、研修を義務化する。

ボルダリング競技の審判においては高度な判断力を必要とすることから、この経験を義務づける規定を加える。

審判員の経験を3年以内に1回と制限して義務づける。

4項は削除：

第3条でS級審判員を廃止したことによる。

<p>5 国際審判員資格保有者は、無条件で S 級審判員に認定する。</p> <p>6 昇級後の資格有効期間は、昇級前の資格有効期間の残期間とする。</p> <p>(資格の喪失)</p> <p>第6条 審判員は、正当な理由がなく、次の各号の一つに該当するときは、技術（審判）委員会の議を経て常務理事会に提案し、資格を喪失する。当該審判員は日山協会長に対し、異議申立てをすることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日山協所属会員でなくなったとき</li> <li>(2) 第4条の規定に違反したとき</li> <li>(3) 不正、不公平な審判をしたとき</li> </ol> <p>(登録)</p> <p>第7条 審判員は、第5条により認定された者が、日山協に登録することによってその資格を得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2 登録の手続き及び登録料は、別に定める。</li> </ol> <p>(登録更新)</p> <p>第8条 審判員資格の有効期間は3年とし、有効期間経過後は登録を更新しなければ、審判員の資格を失う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2 更新を希望する者が、第4条を満たせない場合、若しくは更新申請を怠った場合は、その資格を1年間保留とする。ただし、1年間の保留期間内に資格更新の条件を満たし、改めて更新申請した場合には、保留期間を含めて資格更新を認める。</li> <li>3 特別の事情により更新申請ができなかったと認められる場合は、更新を認めることが</li> </ol>	<p>4 国際審判員資格保有者は、技術（審判）委員会が推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が A 級審判員に認定することができる。</p> <p>5 昇級後の資格有効期間は、昇級前の資格有効期間の残期間とする。</p> <p>(資格の喪失)</p> <p>第6条 審判員は、正当な理由がなく、次の各号の一つに該当するときは、技術（審判）委員会の議を経て常務理事会に提案し、資格を喪失する。当該審判員は日山協会長に対し、異議申立てをすることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日山協所属会員でなくなったとき</li> <li>(2) 第4条の規定に違反したとき</li> <li>(3) 公認競技会であるか否かを問わず、競技会において、不正、不公平な審判をしたとき</li> <li>(4) 社会的規範、日山協の定める諸規定に反する行為を行ったとき</li> <li>(5) 日山協に不利益をもたらす行為を行ったとき</li> </ol> <p>(登録)</p> <p>第7条 審判員は、第5条により認定された者が、日山協に登録することによってその資格を得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2 登録の手続き及び登録料は、別に定める。</li> </ol> <p>(登録更新)</p> <p>第8条 審判員資格の有効期間は3年とし、有効期間経過後は登録を更新しなければ、審判員の資格を失う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2 更新を希望する者が、第4条を満たせない場合、若しくは更新申請を怠った場合は、その資格を1年間保留とする。ただし、1年間の保留期間内に資格更新の条件を満たし、改めて更新申請した場合には、保留期間を含めて資格更新を認める。</li> <li>3 特別の事情により更新申請ができなかったと認められる場合は、更新を認めるこ</li> </ol>	<p>S 級審判員の廃止に伴い、5 項を 4 項に繰り上げ、国際審判員資格者の処遇を規定する。</p> <p>6 項を 5 項に繰り上げる。</p> <p>本規定の趣旨は一つでも二つでもこのような不正を行えば資格を喪失させるとするもの。</p> <p>(3)公認大会以外でも不正があれば資格を消失させる。</p> <p>(4)(5)項目を追加：詳細に規定。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>ある。</p> <p>4 更新申請は、資格有効最終年度の3月末までに行わなければならない。</p> <p>附 則</p> <p>1 この規程の改廃は、理事会で行う。</p> <p>2 平成19年5月20日 山岳競技審判員規程（昭和51年5月23日制定）の全部を改め、この規程を制定する。</p> <p>3 平成20年4月1日から施行する。 平成23年5月6日 改訂 平成25年5月11日 改訂 平成26年5月25日 改訂</p>	<p>とがある。</p> <p>4 更新申請は、資格有効最終年度の3月末までに行わなければならない。</p> <p>附 則</p> <p>1 この規程の改廃は、理事会で行う。</p> <p>2 平成19年5月20日 山岳競技審判員規程（昭和51年5月23日制定）の全部を改め、この規程を制定する。</p> <p>3 平成20年4月1日から施行する。 平成23年5月6日 改訂 平成25年5月11日 改訂 平成26年5月25日 改訂 平成28年11月13日 改訂</p>	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

クライミング公認ルートセッター規程の一部改正 (案)

2016.11.1

現行規程	改正 (案)	改正理由
<p>クライミング公認ルートセッター規程</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 公益社団法人日本山岳協会 (以下「日山協」と略称する。)は、スポーツクライミングの普及または競技会レベルの維持と安全性の確保のため、クライミング公認ルートセッター規程を定める。</p> <p>(資格・任務)</p> <p>第2条 日山協の公認するクライミングルートセッター (以下「公認ルートセッター」)は、スポーツクライミングで使用される人工壁に、クライミングルートを設定する上で必要な知識、技術、経験を有すると日山協が認定した者とする。</p> <p>2 公認ルートセッターは、日山協に所属する都道府県山岳連盟又は協会 (以下「岳連」と略称する。)会長の推薦を受けた者で、かつ19歳 (認定研修会受講年度の4月1日を基準とする) に達している者とする。</p> <p>(種類)</p> <p>第3条 公認ルートセッターはルートセットを安全に行う上で必要な知識、技術、経験を有する者とし、公認ルートセッター資格の認定については、第5条に定める。</p> <p>2 公認ルートセッターは、日山協又は都道府県山岳連盟・協会及びこれに準ずる団体が主催、共催若しくは主管するクライミング競技会 (以下「公認競技会」と略称する。)のルートセットをおこなうことができる。</p> <p>3 公認ルートセッターのうち、公認競技会に使用するルートの適性と安全性の確認 (以下「ルート確認」) をすることができる者を競技ルートセッターとする。</p> <p>4 競技ルートセッターは、その能力に応じA級、B級、C級の3種類とする。</p> <p>5 C級競技ルートセッターは、県大会規模の公認競技会においてチーフ・ルートセッターとしてルート確認を行うことができる。</p> <p>6 B級競技ルートセッターは、国民体育大会 (以下「国体」と略称する。)ブロック大会及びこれに準じた規模の大会においてチーフ・ルートセッターとしてルート確認を行うことができる。</p>	<p>クライミング公認ルートセッター規程</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 公益社団法人日本山岳協会 (以下「日山協」と略称する。)は、スポーツクライミングの普及並びに競技会レベルの維持及び安全性の確保のため、クライミング公認ルートセッター規程を定める。</p> <p>(資格・任務)</p> <p>第2条 日山協が公認するクライミングルートセッター (以下「公認ルートセッター」と略称する。)は、スポーツクライミングで使用する人工壁に、クライミングルートを設定する上で必要な知識、技術、経験を有すると日山協が認定した者とする。</p> <p>2 公認ルートセッターは、日山協に所属する都道府県山岳連盟又は協会 (以下「岳連」と略称する。)会長の推薦を受けた者で、かつ19歳 (認定研修会受講年度の4月1日を基準とする) に達している者とする。</p> <p>(種類)</p> <p>第3条 公認ルートセッターはルートセットを安全に行う上で必要な知識、技術、経験を有する者とし、公認ルートセッター資格の認定については、第5条に定める。</p> <p>2 公認ルートセッターは、日山協又は都道府県山岳連盟・協会及びこれに準ずる団体が主催、共催若しくは主管するクライミング競技会 (以下「公認競技会」と略称する。)のルートセットを行うことができる。</p> <p>3 公認ルートセッターのうち、公認競技会に使用するルートの適性及び安全性の確認 (以下「ルート確認」と略称する。) をすることができる者を競技ルートセッターとする。</p> <p>4 競技ルートセッターは、その能力に応じA級、B級、C級の3種類とする。</p> <p>5 C級競技ルートセッターは、県大会規模の公認競技会においてチーフ・ルートセッターとしてルート確認を行うことができる。</p> <p>6 B級競技ルートセッターは、国民体育大会 (以下「国体」と略称する。)ブロック大会及びこれに準じた規模の大会においてチーフ・ルートセッターとしてルート確認を行うことができる。</p>	<p>文言の訂正</p> <p>文言の訂正 「と略称する」を追加</p> <p>「と略称する」を追加 文言の訂正</p> <p>文言の訂正 「と略称する」を追加</p>



<p>7 A級競技ルートセッターは、全国大会規模の競技会及び国体本大会においてチーフ・ルートセッターとしてルート確認を行うことができる。</p> <p>(義務)</p> <p>第4条 公認ルートセッターは、資格有効期間内に日山協が主催するルートセッター認定研修会に1回以上参加しなければならない。資格有効期間内に公認競技会において3回以上ルートセットをおこなった者は認定研修会に参加したものとみなす。ただし、この場合には、A級ルートセッターは全国大会規模の公認競技会においてチーフ・ルートセッターを1回以上、B級ルートセッターはブロック大会以上の公認競技会において、ルートセットを1回以上おこなっていないなければならない。</p> <p>2 資格有効期間内において、国際大会に日本代表選手として参加した者は、認定研修会に参加したものとみなすことができる。</p> <p>(認定と昇級)</p> <p>第5条 公認ルートセッター資格の認定は、日山協が主催するルートセッター認定研修会の筆記試験及び実技研修の結果に基づき、技術(審判)委員会が審査し、常務理事会の議を経て日山協会長が行う。この際その能力が充分であると認められた者については、同時にC級競技ルートセッター資格を認定することができる。</p> <p>ルートセッター認定研修会の受講基準は、以下の条件(1)~(5)のいずれかを満たすと同時に、(3)~(5)の内の一つ以上を満たす者とする。</p> <p>(1) 5.12a以上をオンサイトできる。</p> <p>(2) 5.12c以上を1日でレッドポイントできる。</p> <p>(3) 大小を問わず競技会のルートセットを行った経験がある。</p> <p>(4) スポーツクライミング競技会(ジャパンカップ、日本選手権、アジア選手権、ワールドカップなど)の参加経験がある。</p> <p>(5) 自然の岩場でフリー・クライミング・ルートの開拓を10本以上行っている。</p> <p>2 公認ルートセッター資格を有する者が、競技ルートセッター資格を取得する場合は、3回以上の公認競技会においてルートセットをおこない、B級以上の競技ルートセッター2名以上(内1名はA級以上とする)の推薦によって技術(審判)委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て</p>	<p>7 A級競技ルートセッターは、全国大会規模の競技会及び国体本大会においてチーフ・ルートセッターとしてルート確認を行うことができる。</p> <p>(義務)</p> <p>第4条 公認ルートセッターは、資格有効期間内に日山協が主催するルートセッター認定研修会に1回以上参加しなければならない。資格有効期間内に公認競技会において3回以上ルートセットを行った者は認定研修会に参加したものとみなす。ただし、この場合には、A級ルートセッターは全国大会規模の公認競技会においてチーフ・ルートセッターを1回以上、B級ルートセッターはブロック大会以上の公認競技会において、ルートセットを1回以上行っていないなければならない。</p> <p>2 資格有効期間内において、国際大会のルートセットを行った国際ルートセッター資格保有者及び、国際大会に日本代表選手として参加した者は、認定研修会に参加したものとみなすことができる。</p> <p>(認定と昇級)</p> <p>第5条 公認ルートセッター資格の認定は、日山協が主催するルートセッター認定研修会の筆記試験及び実技研修の結果に基づき、技術(審判)委員会が審査し、常務理事会の議を経て日山協会長が行う。この場合、その能力が充分であると認められた者については、同時にC級競技ルートセッター資格を認定することができる。</p> <p>(後段 削除)</p> <p>2 公認ルートセッター資格を有する者が、競技ルートセッター資格を取得する場合は、3回以上の公認競技会においてルートセットを行い、B級以上の競技ルートセッター2名以上(内1名はA級以上とする)の推薦によって技術(審判)委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定す</p>	<p>文言の訂正</p> <p>文言の訂正</p> <p>国際大会のルートセッターをした国際ルートセッター有資格者を追加した。</p> <p>文言の訂正</p> <p>研修会の基準は、技術の進歩に適應するようその都度高度な研修を行うことにし、ここでは後段部分を削除する。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>日山協会長が認定する。</p> <p>3 C級ルートセッターからB級ルートセッターへの昇級は、A級ルートセッター2名の推薦によって技術（審判）委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。</p> <p>B級ルートセッター資格の基準は、ブロック大会規模の公認競技会のルート・セットを2回以上行った経験があり、<u>5.1.2.c</u>程度のルートをオンサイト又は5.1.3.a程度のルートをレッドポイントできるものとする。</p> <p>4 B級ルートセッターからA級ルートセッターへの昇級は、A級ルートセッター2名の推薦によって技術（審判）委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。</p> <p>A級ルートセッター資格の基準は、原則として全国大会規模の公認競技会のルート・セットを4回以上行った経験があり、<u>5.1.3.a</u>程度のルートをオンサイト若しくは<u>5.1.3.c</u>程度のルートをレッドポイントできるものとする。</p> <p>5 インターナショナル・ルートセッター資格保有者は、<u>A級ルートセッターとして無条件</u>で認定することができる。</p> <p>6 昇級後の資格有効期間は、昇級前の資格有効期間の残期間とする。</p> <p>(資格の喪失)</p> <p>第6条 公認ルートセッターは、正当な理由がなく、次の各号の一つに該当するときは、技術（審判）委員会の議を経て常務理事会に提案し、資格を喪失する。当該ルートセッターは日山協会長に対し、異議申立てをすることができる。</p> <p>(1) 日山協所属会員でなくなったとき</p> <p>(2) 第4条の規定に違反したとき</p> <p>(3) 自らがルートセッターを担当したか否かにかかわらず、クライミング競技会において不正、不公平な行為を行ったとき</p>	<p>る。</p> <p>3 C級ルートセッターからB級ルートセッターへの昇級は、A級ルートセッター2名の推薦によって技術（審判）委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。</p> <p>B級ルートセッター資格の基準は、ブロック大会規模の各種目の公認競技会（リード競技会及びボルダリング競技会）のルート・セットを2回以上行った経験があり、公認競技会の女子予選レベルのルートをオンサイト又は公認競技会の女子決勝レベルのルートをレッドポイントできるものとする。</p> <p>4 B級ルートセッターからA級ルートセッターへの昇級は、A級ルートセッター2名の推薦によって技術（審判）委員会が審査の上、推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長が認定する。</p> <p>A級ルートセッター資格の基準は、原則として全国大会規模の公認競技会のルート・セットを4回以上行った経験があり、公認競技会の男子予選ルートをオンサイト若しくは公認競技会の男子決勝ルートをレッドポイントできるものとする。</p> <p>5 インターナショナル・ルートセッター資格保有者は、技術（審判）委員会が推挙し、常務理事会の議を経て日山協会長がA級ルートセッターに認定することができる。</p> <p>6 昇級後の資格有効期間は、昇級前の資格有効期間の残期間とする。</p> <p>(資格の喪失)</p> <p>第6条 公認ルートセッターは、正当な理由がなく、次の各号の一つに該当するときは、技術（審判）委員会の議を経て常務理事会に提案し、資格を喪失する。当該ルートセッターは日山協会長に対し、異議申立てをすることができる。</p> <p>(1) 日山協所属会員でなくなったとき</p> <p>(2) 第4条の規定に違反したとき</p> <p>(3) 自らがルートセッターを担当したか否かにかかわらず、また公認競技会であるか否かを問わず、クライミング競技会において不正、不公平な行為を行ったとき</p> <p>(4) 社会的規範、日山協の定める諸規定に反する行為を行ったとき、</p> <p>(5) 日山協に不利益をもたらす行為を行ったとき</p>	<p>B級は女子決勝ルートをレッドポイントできるもの、としてより高度なレベルに引き上げる。</p> <p>A級はレベルを男子決勝ルートをレッドポイントできるもの、としてより高度に引き上げる。</p> <p>無条件で資格を与えるのではなく、会長が認定するように改める。</p> <p>公認大会以外でも不正があれば資格を消失させる。より詳細に規定する。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(登録)

- 第7条 公認ルートセッターは、第5条により認定された者が、日山協に登録することによりその資格を得る。
- 2 登録の手続き及び登録料は、別に定める。

(登録更新)

- 第8条 公認ルートセッター資格の有効期間は3年とし、登録を更新しなければ、ルートセッターの資格を失う。
- 2 更新を希望する公認ルートセッターが、第4条を満たせない場合、若しくは更新申請を怠った場合は、その資格を1年間保留とする。ただし、1年間の保留期間内に資格更新の条件を満たし、改めて更新申請した場合には、保留期間を含めて資格更新を認める。
- 3 特別の事情により更新申請ができなかったと認められる場合は、更新を認めることがある。
- 4 更新申請は、資格有効最終年度の3月末までに行わなければならない。

附 則

- 1 この規程の改廃は、理事会で行う。
- 2 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成23年5月 6日 改定  
平成25年5月11日 改定  
平成27年5月16日 改定

(登録)

- 第7条 公認ルートセッターは、第5条により認定された者が、日山協に登録することによりその資格を得る。
- 2 登録の手続き及び登録料は、別に定める。

(登録更新)

- 第8条 公認ルートセッター資格の有効期間は3年とし、登録を更新しなければ、ルートセッターの資格を失う。
- 2 更新を希望する公認ルートセッターが、第4条を満たせない場合、若しくは更新申請を怠った場合は、その資格を1年間保留とする。ただし、1年間の保留期間内に資格更新の条件を満たし、改めて更新申請した場合には、保留期間を含めて資格更新を認める。
- 3 特別の事情により更新申請ができなかったと認められる場合は、更新を認めることがある。
- 4 更新申請は、資格有効最終年度の3月末までに行わなければならない。

附 則

- 1 この規程の改廃は、理事会で行う。
- 2 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成23年5月 6日 改定  
平成25年5月11日 改定  
平成27年5月16日 改定  
平成28年3月6日 改定  
平成28年11月13日 改定

# 平成25年度からの国体山岳競技ブロック大会における種別総合順位決定方法

2013. 6. 20

国体では平成25年度大会から、リード競技のチーム成績に同着があった場合の算出方法を「同着となったチームの選手の競技時間(アテンプト開始から終了までの時間)の合計を比較し、これが短いチームを上位とする。」に変更します。これにともないブロック大会の順位決定方法についても一部変更が生じますので対応をお願いいたします。

- (1) リード競技のチーム順位は、「国民体育大会山岳競技規則集 平成25年5月改定」(以下 規則集)の「リード競技規則」第4章 審査基準にしたがって決定する。ブロック大会では、カウントバックを除き、決勝の方法に準ずるものとする。  
なお平成25年より、決勝において従来の決定法(規則集 リード競技規則 第8条第2項まで)を適用してなお、チーム順位に同着があった場合、同着となったチームの選手の時間記録合計を比較することとなっている(同 第3項)ので、留意されたい。
- (2) ボルダリング競技のチーム順位は、規則集の「ボルダリング競技規則」第4章 審査基準にしたがって決定する。なおブロック大会では予選の方法に準ずるものとする。
- (3) 種別総合順位は以下の方法により決定する。例としてブロック4県中、通過県は2県の場合を示す。

1) リード競技とボルダリング競技それぞれのチーム順位を合計したものを比較して決定する。

県名	A 県	B 県	C 県	D 県
リード チーム順位	1位	3位	2位	4位
ボルダリング チーム	2位	1位	4位	3位
チーム順位合計	3	4	6	7

種目別チーム順位を合計した値が小さいA県とB県が通過

2) 複数のチームの、1)で求めたチーム順位合計が同点になった場合は、種目別チーム順位で高順位を有するチームを上位とする。

県名	A 県	B 県	C 県	D 県
リード チーム順位	1位	3位	2位	4位
ボルダリング チーム	3位	1位	2位	4位
チーム順位合計	4	4	4	8

より上位の種目別チーム順位を有するA県とB県が通過

競技、ボルダリング競技ともに、2)以下で用いる個人順位に同順位者が複数いる場合、個人順位は以下のように算出した平均順位の数を用いる。これを求める一般式は  $\text{順位} + (\text{同着の人数} - 1) \div 2$  となる。

例: 1位に6名の同着があった場合、同着の各選手の順位は  $(1+2+3+4+5+6) \div 6 = 21 \div 6 = 3.50$ となる

例: 2位に4名の同着があった場合、同着の各選手の順位は  $(2+3+4+5) \div 4 = 14 \div 4 = 3.50$ となる

- 3) 2)の種目別チーム順位の比較でも選考できない場合は、2種目の種目別個人順位の合計で上位となる(合計した値が小さい)チームを上位とする。

県名	A 県	B 県	C 県	D 県
リード チーム順位	1位	2位	3位	4位
ボルダリング チーム	1位	3位	2位	4位
チーム順位合計	2	5	5	8

A 県は1)により通過決定  
B、C 県は2)を適用しても同順位で選考できない

県名	B 県	C 県
リード個人順位	2.5位・4位	5位・6位
ボルダリング個人順位	5位・6位	3位・4位
個人順位合計	17.5	18

個人順位合計で上位となるB 県が通過

- 4) 3)の2種目の個人順位の合計の比較でも選考できない場合は、個人順位に高順位を有するチームが上位となる。

県名	B 県	C 県
リード個人順位	2.5位・4.5位	4.5位・6.5位
ボルダリング個人順位	5位・6位	3位・4位
個人順位合計	18	18

より上位の個人順位を有するB 県が通過

- 5) 下表のように4)を適用しても、個人順位の高順位が同順位で選考できない場合、当該の各都道府県チームの選手各2名が、ボルダリング競技のタイブレークボルダー(旧スーパーファイナル)形式で、スーパーファイナルをおこない、チーム順位が上位のチームを上位とする。

種目	県名	B 県	C 県
リード チーム順位		2位	3位
ボルダリング チーム		3位	2位
チーム順位合計		5	5
リード個人順位		4位・6位	3位・5位
ボルダリング個人順位		3位・5位	4位・6位
個人順位合計		18	18

両県の全ての条件が同じ

※ この時、ボルダリング競技規則 第4条第4項(3)に定めるアテンプト回数の上限は適用せず、両チームの差がつくまで繰り返す。

※ この場合を想定して、ボルダリング競技を最終日に実施することが望ましい。

※ スーパーファイナルの個人順位決定後のチーム順位が同じ場合は、個人順位の高順位のあるチームを上位とする。

※ やむを得ずスーパーファイナルをリード競技でおこなう場合は、新たにルートを設定せず、リードで使用した同じルートでおこなうことができる。

ただしこの場合、リード競技でアテンプトを終了した全選手について、そのチームのスーパーファイナルの必要の有無が確定するまで、他選手の競技を見ることできないように隔離しなければならない。またチーム順位は、前記(1)にしたがって決定する。

